

2.4 掘削調査地点の土地改変履歴

これまでの、ヒアリング、航空写真等を総合して掘削調査地点の土地改変履歴をまとめた。

昭和 54 年まで

松林【写真確認】。

(昭和 56) ~ 昭和 58 年頃

掘削調査地点北側一帯の砂利採取。埋戻し土は、旧大野村和と鹿島の十二神の残土。埋め戻し後、南側敷地境界に土手を盛る【写真、証言】。

昭和 59 ~ 60 年頃

掘削調査地点南側の砂利採取。このとき北側のあった土手の一部を破壊。埋め戻し土は、神栖高校の土と隣接の表土、不足分は麻生町や小見川町の山砂【証言】。

昭和 60 ~ 平成 3 年頃

一時、水田として利用【証言】。

いけす設置時期(平成 3 ~ 4 年頃)

現地盤高より、2mほど掘り下げて、シートを張り、いけすとして利用。平成 3 年 3 月撮影写真と平成 4 年 10 月撮影写真では、いけすが確認できる【証言、写真】。

いけす埋め戻し時期(平成 5 年頃)

シートを剥がし、さらに 2mほど掘り下げた(全体で 4m程度)。埋戻し土は、町道から 2/3 の敷地部分は川崎の業者の残土、残り 1/3 は埼玉方面の業者の石灰を混ぜた残土【証言】。

平成 6 年以降

平成 6 ~ 7 年は水田として利用。平成 8 年以降は更地【証言】。

また、掘削調査地点における昭和 50 年代後半の砂利採取については、直接砂利採取を行ったという証言はなかったが、昭和 58 年撮影の航空写真を見ると、北側一帯の砂利採取に掘削調査地点が含まれることから、掘削調査地点における砂利採取は、昭和 58 年以前であった可能性が高い。